

認知症の人と家族の会愛媛支部の中予地区「つどい」は毎月第2月曜日午後1時～3時、場所は松山市末町甲9-1「愛媛県在宅介護研修センター」で行っています。他にも東予地区4カ所、南予地区で2カ所あります。電話相談も月一金午前10時から午後4時でしています。電話番号は、089-923-3760です。

認知症と家族の会のつどいに関しては、上記相談電話にお問い合わせください。



認知症疾患医療センターの活動



砥部病院認知症疾患医療センターでは、当院西隣介護付き有料老人ホーム To-be 1階「タヤケこやけ」で毎週金曜日午後1時半から2時半認知症カフェ「オレンジカフェ」を開催しています。第1金曜日は、ウクレレカフェ、第4金曜日は、家族のつどいをしています。第2水曜日に同じ場所、同じ時間で、若年性認知症の方対象で当事者カフェ「おれんじドア えひめ（べにまどんな）」を開催しています。恐れ入りますが、利用希望時はお電話をください。利用ご希望がない折は閉店しています。

令和5年7月は、認知症疾患医療センター宇和島病院のオンライン勉強会参加、中平相談員を伊予市へ講師派遣、坂根先生が東温市の会議に出席などがありました。若年性認知症の丹野博文さんのこれ迄の人生を映画化した「オレンジ・ランプ」も7月に公開上映されました。

令和5年8月は、4日に第1回中予地域認知症疾患保健医療福祉連携協議会を行います。



さて今回も2月16日中城有喜センター長が講演したHITO病院にて、IHGみかんの会主催「認知症になっても住みやすいまち、地域で寄り添うこと」参加者の方からの質問に対する中城センター長の回答を紹介します。

Q6.認知症になる前は、講演内容にあるように、なったら不安とかはわかりますが、認知症になれば不安な気持ちなどは感じないのではないですか？

A6.認知症になれば何も分からなくというのは間違いです。それを世間に訴えたのは「国際アルツハイマー病協会国際会議 京都 2004」でした。認知症当事者のクリスティーンさんが再来日し、「私たち抜きには何も始まらない」と題し講演しました。この会議では越智俊二さんが、実名で認知症であることを明かし講演しました。「もの忘れが始まって10年になります。病気になったことは本当にくやしいです。なぜと思う気持ちや、自分が自分でなくなる不安もありますが、家族やまわりの方たちのおかげで、いいほうに考えることができている。これからの望みは、良い薬ができてこの病気が治ったらもう一度働きたい。どんな仕事ができるかわかりません。どんな仕事でもいい。今度は私が働いて、奥さんを楽にしたい。そして今まで苦労かけた分、お返しをしたい。」

日本の認知症を取り巻く状況が大きく動きかけの年となりました。この後、多くの認知症の当事者が声をあげて、認知症になっても心は生きている、何も分からなくなるのではないことを表現しています。では来月もQ&Aをご紹介します。





砥部病院面会について



相談員に面会予約・ご相談をお願い致します。
 検温、感染対策の上、ご面会ください。
 感染状況は随時変わります。突然ご面会をお断りすることも
 ございます。ご了承ください。
 みなさまもどうぞ体調にご留意いただき、ご協力をお願い致
 します。



高齢者こころのケアセンター(認知症病棟)の近況

7月は、畑にすいかができました。またトマトの垣の中では、枝豆が育っています。反対側には、トマトの垣の向かい側は、秋桜、秋桜の隣は、さつまいもが植えてあります。



くまのつぶやき

ニュースレターを作成しはじめたとき、赤ちゃんだった猫のくまも17歳となり、令和5年7月24日天命を全うしました。センターの中で、癒しの存在でした。



これからもニュースレターのひとことコーナーは、「くま」の名前を残したいと思います。

砥部病院高齢者こころのケアセンター 相談室(文責 武田)

相談員:青木(176)・中平(512)・武田(516)・菊地(517)

お気づきの点がありましたら、ご連絡ください

